

## 大学内の複数サイトの効率的な管理や運営を極大化

ブランドイメージの統一・安定感を確保、アイオンコミュニケーションズの「ICS4」を導入

韓国の延世大学は今年の5月で創立122年を迎えた。今後3年以内に韓国学、医学生命、移動通信、天文学、工学など五つの分野で世界10位内に入る大学を目指している。その方針の一環でCMS(Content Management System)を取り入れた。大学の第2の顔として機能する存在になっているサイトの活性化でサービスのレベルを高め、各サイトの効率的な管理や運営を極大化できるという判断によるものである。

(出処：Computer World, 2007.3)



## 延世大学

(以下、延世大)のサイトはメインサイト、機関のサイトと小規模の機関用サイトなどがあり、機関のサイトには大学のサイト、大学院のサイト、そして企画室、総務所、財務所など本部機関のサイトが、小規模の機関用サイトには学校の付設研究所と学科教授の個人サイトなどがある。

### 複数のサイトの散在でサイト運営・管理が困難

延世大は今までメインサイトの中に個々には自己完結した10あまりの大学と大学院を支援する機関のサイトをなどを個別運営してきた為、様々なサイトの構築、運営、管理に莫大な費用と人材と時間がかかった。

延世大学情報通信所 課長 朴・ジンス氏は、「サイトの担当開発責任者の不在などでメンテナンスが難しく、開発の費用よりメンテナンスの費用のほうがもっと高い場合もあった。」と語り、さらに「メンテナンスの費用を減らし、サイト管理及び運営効率性の極大化の方策としてCMSを検討した。」という。

2006年下半期に延世大のWebサイトは個々に運営、管理されてきた各機関のサイトの統一感や標準化のためCMS(Content Management System)の構築プロジェクトに本格着手した。延世大は他の大学及び機関に既に構築されたCMSの事例を比較分析し、海外及び韓国内の主要CMS製品の技術評価をした結果、最終的にアイオンコミュニケーションズのCMS製品である「ICS 4」を選択、導入した。

延世大のCMSプロジェクトは ▲サイトのメンテナンス が容易 ▲サイトと学士課程教育のシステム及びメインサイトの連携の強化などに重点を置いた。詳細ロゴからデザインまで統一するという考え方を適用し、すべてのサイトが一貫性を保つようにした。

延世大はまず学校内に散在する30余機関のサイトの内老朽化されたサイト12個を選定して開発に着手した。このプロジェクトは2006年8月に業者の選定、12月までシステムの構築完了という目標で行われ、12月末から1月末まで12機関のサイトを段階的にオープンした。

## メンテナンス費用を3割以上を削減・節約

「以前は各サイト毎の作業を行ってからメインサイトでお知らせ告知したり、ファイルのバージョン管理するときも既存ファイルをコピーして変更をするという手間があった。しかし、CMS「ICS4」を構築してからはお知らせの一括配信機能やファイルバージョン管理機能によってサイト管理者の業務効率性をかなり高めることができた」と朴氏は言う。

尚、今まで定期的部署移動による専門教育の実施が難しかったのに、今回のプロジェクトでサイト管理に必要な専門知識が無くてコンテンツ管理しやすい環境を整えた。

ICS 4 の導入効果のもう一つとしてあげられるのは、CMSの統合環境で新規サイトを構築しやすくなった点である。

朴氏は「新規サイトの構築にかかる費用の4~5割が節減でき、メンテナンスの費用も既存より3割以上が節約できた。」ということである。



## [Interview] 延世大学校 情報通信所課長 朴・ジンス氏

### CMSの導入効果を明確にする

#### 一般ユーザが分かりやすいサイトの変化点は

延世大学校のブランド色は青色です。今回のCMSを取り入れるとき青ではなくオレンジ色を適用しました。このような変化を「新鮮なアイディア」だという多数の評価が受けました。

#### 実際運営上心かける点は

CMS製品の特長上、お知らせの配信の際、少しの注意事項があります。メインページにコンテンツを表示するためにはそれぞれの二度配信を行うという手間があるということです。

#### 今後CMSを検討中のユーザ様にアドバイスを一言

CMSを取り入れる目的や導入ポイントを明確にすることです。一般サイトを管理する水準であればCMSを必ず取り入れる必要はないと思います。いくつかの連携サイトを運営・管理する場合のCMSの導入効果は非常に高いと思います。

ありがとうございました。



## 【お問い合わせ】